



DAINIPPON  
SUMITOMO  
PHARMA

からだ・くらし・すこやかに

大日本住友製薬株式会社

証券コード 4506

# 第192期 [中間] 株主通信

2011年4月1日～2011年9月30日







DAINIPPON  
SUMITOMO  
PHARMA

からだ・くらし・すこやかに

## 目次

プロフィール	1
トップメッセージ	3
事業概況	5
財務データ	7
通期連結業績の見通し	9
研究開発の状況	10
CSR トピックス	13
IR 広場	15
企業インフォメーション	17
株式の状況	18
株主メモ	裏表紙

## 企業理念

「人々の健康で豊かな生活のために、  
研究開発を基盤とした新たな価値の創造により、  
広く社会に貢献する」

## 大日本住友製薬の研究開発

「グローバルレベルで戦える研究開発型企業」を目指し、中長期を見据えた研究開発領域として、「重点領域」と「チャレンジ領域」を設定しております。

### 重点領域：精神神経領域

当社がグローバル製品創出に向けて以前より注力してきた研究領域で、医療上のニーズも高く、また、当社のアクティビティも高いことから、重点領域に設定しております。

統合失調症、認知症、うつ病等を中心に創薬研究に取り組んでおります。

### チャレンジ領域：スペシャリティ領域

がん・免疫関連疾患等、アンメット・メディカル・ニーズ（未だ満たされていない医療ニーズ）が高く、高度な専門性が研究・開発・営業に求められる専門領域にあたり、これまでの経験を活かした創薬研究にチャレンジしております。



## 大日本住友製薬のマーケティング

「国内・海外事業が収益の2本柱」の実現を目指し、国内・海外医薬品事業それぞれにおいて、重点施策と営業重点領域を定め、経営資源を集中的に投下してまいります。

### 国内医薬品事業

### 海外医薬品事業

#### ▶ 精神神経領域 (グローバル)

当社グループは、研究・開発・営業のすべてにおいて、精神神経領域を重点領域として、成長基盤を構築いたします。統合失調症をはじめ、パーキンソン病、不安障害、てんかん等、多様な治療剤を提供しております。

主な製品：ロナセン・トレリーフ (国内) / ラツーダ・ルネスタ (北米)

#### ▶ 循環器・糖尿病領域 (国内)

作用メカニズムの異なる各種の高血圧症治療剤を取り揃え、高血圧症治療のパートナーを目指しております。また、複数の2型糖尿病治療剤を提供しております。

主な製品：アバプロ / アムロジン / メトグルコ

#### ▶ がん・感染症領域 (国内)

肝細胞がん治療剤および細菌感染症、深在性真菌症の治療剤等を販売しております。医療ニーズの高いがん領域には研究面でも注力しております。

主な製品：ミリブラ / メロベン / アムビゾーム

#### ▶ 呼吸器領域 (北米)

精神神経領域とともに呼吸器領域を主力として事業展開しております。喘息、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、アレルギー性鼻炎の治療薬を販売しております。

主な製品：ゾペネックス / プロバナ / オムナリス

#### ▶ 感染症領域 (中国)

細菌感染症治療剤を主力製品として事業を展開しております。さらに、小細胞肺がん治療剤を開発中です。

主な製品：メロペン

# グローバル戦略品「ラツーダ」の製品価値を早期に 最大化し、成長軌道を実確なものにしてまいります。



代表取締役社長 多田 正世

多田 正世

## はじめに

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

2011年度(第192期)第2四半期(2011年4月1日から2011年9月30日まで)の事業の概要をご報告申し上げるにあたり、皆さまからの温かいご支援、ご理解に対し、厚くお礼申し上げます。

当社は、10年後の中長期ビジョン(2007年設定)として『国内事業を強固な収益基盤として確立』『海外自販の進展』『将来像実現のための開発パイプラインの充実』の実現を目指しております。

その中で、2011年度は「創造・変革 グローバル化の新たなステージへ」をスローガンとした2010年度からの5年間の第二期中期経営計画の2年目として、中長期ビジョンの実現に向け取り組んでおります。

特に、本年2月に米国で統合失調症を適応症として発売したグローバル戦略品である非定型抗精神病薬「LATUDA<sup>®</sup>(ラツーダ)」(一般名:ルラシドン塩酸塩)の今後の売上最大化を遂げるために、2011年度は非常に重要な年度であり、最優先課題として米国市場での早期市場浸透に取り組んでおります。

## 当第2四半期の概況報告

国内医薬品事業におきましては、戦略品や新製品に営業資源を集中いたしました。売上高は微減となりました。北米医薬品事業におきましては、既存品に加え、新製品「ラツーダ」の売上拡大に取り組み、現地通貨ベースでは増収となりましたが、円高の影響により減収となりました。中国医薬品事業におきましては、堅調に売上拡大を図りました。

以上の結果、当第2四半期の売上高は減少いたしました。営業利益はほぼ横ばい、固定資産売却益があったため四半期純利益は増益となりました。

当初計画に対しましては、費用の発生が想定より下回ったこともあり、営業利益以下の各利益は大幅に上回りました。

## 「ラツーダ」の状況

「ラツーダ」は本年2月の米国での発売以来、望ましい製品プロファイルに加えて、精神科医に対する積極的なプロモーション活動に注力した結果、順調に処方せん枚数が増加いたしました。売上高としては、第2四半期までに4,100万ドル(34億円)を達成いたしました。残念ながら当初の販売計画には達しませんでした。

引き続き、2011年度の年間計画(9,000万ドル)の達成に向けて、プロモーション活動に注力いたします。さらに、今後、米国での適応症の追加や販売地域の拡大に向けた開発にも取り組み、グローバルでの早期の売上最大化を目指してまいります。

## 2011年度通期の見通し

2011年度は、国内では戦略品・新製品の売上増加、米国では「ラツーダ」発売による売上寄与もありますが、既存品の売上減少や前期に計上した導出契約の一時金収入の減少などから、前期に比べて減収減益になると見込んでおります。

厳しい事業環境が続きますが、引き続き、国内収益構造の変革、海外事業の拡大と収益最大化、開発パイプラインの強化に取り組みます。また、「ラツーダ」の早期最大化に向けた対応を確実に進めるとともに、中期経営計画で掲げた基本方針を全役員・全従業員が一丸となって推進し、成長軌道を確実なものとしてまいります。

## 株主の皆さまへ

当社は、株主の皆さまへ常に適切な利益還元を行うことを最も重要な経営方針の一つに位置づけております。配当につきましては、成果の適切な配分を重視するとともに、企業価値のさらなる向上に向け、将来の成長のための積極的な投資や、強固な経営基盤の確保、財務内容の充実などを総合的に見極め、決定してまいります。

これからも、たゆまぬ事業の発展を通して企業価値を持続的に高め、株主の皆さまの信頼に応えていく所存でございます。

株主の皆さまにおかれましては、これまでと変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 事業概況

## 円高の影響などにより売上高は減少、四半期純利益は増益となりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、円高の影響もあり1,780億円（前年同期比5.6%減）となりました。利益面では、研究開発費の減少や円高に伴う費用減少もあり、営業利益は147億円（同1.4%減）、経常利益は145億円（同0.7%増）とほぼ横ばいとなりました。また、旧東京事業所の土地等の売却益を特別利益に計上したことから、四半期純利益は96億円（同10.6%増）となりました。

### セグメント別事業概況

#### ①日本

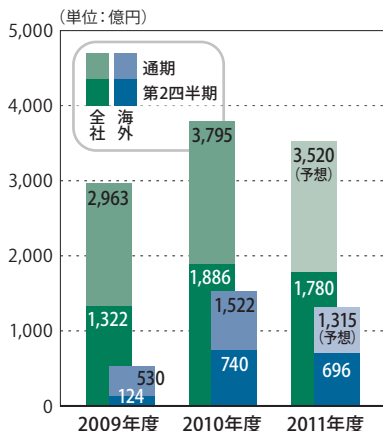
当社の国内医薬品事業を中心とする業績です。高血圧症治療剤「アバプロ」、非定型抗精神病薬「ロナセン」、末梢循環改善剤「プロレナル」の戦略品や、パーキンソン病治療剤「トレリーフ」、肝細胞がん治療剤「ミリブラ」、ビッグアナイド系経口血糖降下剤「メトグルコ」等の新製品に営業資源を集中し、売上高の増加に注力するとともに、ローコスト経営の徹底

等、継続的な経営効率の追求による利益の拡大に積極的に取り組みましたが、前期に実施した成長ホルモン事業譲渡の影響等もあり、売上高は886億円（前年同期比1.8%減）、セグメント利益は339億円（同0.1%減）となりました。

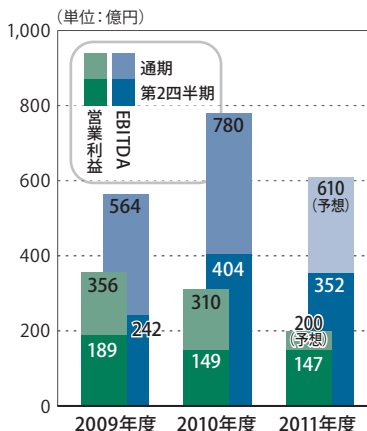
#### ②北米

サノビオン社を中心とする米国子会社および当社の北米事業の業績です。当社のグローバル戦略品である非定型抗精神病薬「ラツーダ」の早期の市場浸透・販売拡大に注力するとともに、不眠症治療剤「ルネスタ」、喘息治療剤「ゾベネックス」等の既存品にも積極的なプロモーション活動を行いました。売上高につきましては、現地通貨ベースでは増加したものの円高の影響を受けたことにより562億円（前年同期比7.6%減）となりました。また、セグメント利益は「ラツーダ」関連の費用が増加したことにより、11億円（同81.4%減）となりました。

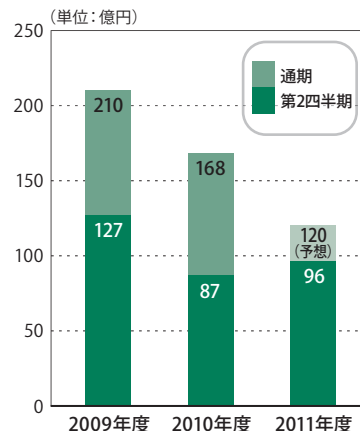
### ■ 売上高



### ■ 営業利益およびEBITDA\*



### ■ 当期純利益



\*EBITDA (Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization): 利息、税金、減価償却費、特別損益控除前利益

### ③中国

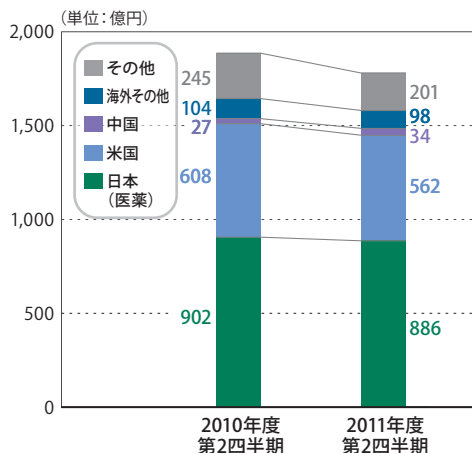
住友製薬(蘇州)有限公司および当社の中国事業の業績です。カルバペネム系抗生物質製剤「メロベン」(現地販売名「美平」)の販売が堅調に推移したこと等により、売上高は34億円(前年同期比26.2%増)となりましたが、販売費及び一般管理費が増加したことによりセグメント利益は9億円(同5.9%減)となりました。

### ④海外その他

当社から北米および中国以外への輸出等の取引高で、売上高は98億円(前年同期比6.0%減)、セグメント利益は45億円(同17.2%減)となりました。

上記報告セグメントの他に当社グループは、食品素材・食品添加物および化学製品材料、動物用医薬品、診断薬等の販売を行っており、それらの事業の売上高は201億円(前年同期比18.1%減)、セグメント利益は16億円(同10.2%増)となりました。

## ■セグメント別売上高



## ■主要製品の販売状況

### 国内

(リポート控除前、単位:億円)

製品名 [薬効]	前第2四半期	当第2四半期	2011年度 (予想)
アバプロ [高血圧症治療剤]	37	49	115
ロナセン [非定型抗精神病薬]	43	50	110
プロレナル [末梢循環改善剤]	74	78	155
トレリーフ [パーキンソン病治療剤]	16	25	54
ミリブラ [肝細胞がん治療剤]	7	7	14
シュアポスト [速効型インスリン分泌促進剤]	—	1	2
メトグルコ [ビッグアイド系経口血糖降下剤]	1	29	74
アムロジン [高血圧症・狭心症治療薬]	210	182	355
ガスモチン [消化管運動機能改善剤]	102	104	210
メロベン [カルバペネム系抗生物質製剤]	66	62	110
リブレガル [ファブリー病治療剤]	25	43	89

■ 戦略品 ■ 新製品

### 海外

(単位:億円)

製品名 [薬効]	前第2四半期	当第2四半期	2011年度 (予想)
ラツータ [非定型抗精神病薬]	—	34	72
ルネスタ [不眠症治療剤]	285	214	428
ゾベネックス [喘息治療剤]	190	177	330
メロベン [カルバペネム系抗生物質製剤]	23	29	56

■ 米国 ■ 中国

## 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別 前期末 (2011年3月31日)	当第2四半期末 (2011年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	332,999	323,274
現金及び預金	14,938	8,268
受取手形及び売掛金	107,803	91,599
有価証券	90,921	103,879
たな卸資産	55,971	54,793
繰延税金資産	33,489	33,122
短期貸付金	25,000	25,000
その他	4,998	6,714
貸倒引当金	△ 122	△ 104
固定資産	256,868	243,020
有形固定資産	69,793	68,334
建物及び構築物	41,730	41,118
機械装置及び運搬具	12,058	10,756
土地	10,291	10,260
建設仮勘定	941	1,482
その他	4,771	4,716
無形固定資産	143,266	128,143
のれん	70,369	68,618
特許権	60,984	48,264
その他	11,912	11,259
投資その他の資産	43,807	46,542
投資有価証券	27,922	28,051
繰延税金資産	7,023	9,365
その他	8,961	9,235
貸倒引当金	△ 99	△ 109
<b>① 資産合計</b>	<b>589,868</b>	<b>566,294</b>

### ① 資産合計

受取手形及び売掛金の減少や特許権等の無形固定資産の償却等により、総資産は前期末に比べ236億円減少し、5.663億円となりました。

(単位：百万円)

科目	期別 前期末 (2011年3月31日)	当第2四半期末 (2011年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債	157,203	98,692
支払手形及び買掛金	15,647	16,770
短期借入金	50,000	—
1年内返済予定の長期借入金	10,600	10,000
未払法人税等	7,678	8,796
賞与引当金	7,431	7,679
返品調整引当金	2,289	3,031
売上割戻引当金	15,875	16,398
未払金	33,849	24,216
その他	13,831	11,799
固定負債	108,680	139,115
社債	50,000	70,000
長期借入金	43,000	53,000
退職給付引当金	10,266	10,626
その他	5,414	5,489
<b>② 負債合計</b>	<b>265,884</b>	<b>237,808</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	341,798	347,791
資本金	22,400	22,400
資本剰余金	15,860	15,860
利益剰余金	304,186	310,180
自己株式	△ 648	△ 649
その他の包括利益累計額	△ 17,814	△ 19,305
その他有価証券評価差額金	5,413	5,694
為替換算調整勘定	△ 23,228	△ 24,999
<b>③ 純資産合計</b>	<b>323,983</b>	<b>328,486</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>589,868</b>	<b>566,294</b>

### ② 負債合計

有利子負債が減少したこと等により、前期末に比べ281億円減少し、2.378億円となりました。

### ③ 純資産合計

四半期純利益の計上による利益剰余金の増加が配当金の支払による減少を上回ったこと等により、前期末に比べ45億円増加し、3.285億円となりました。

なお、当第2四半期末の自己資本比率は58.0%となりました。



## 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期間 前第2四半期 連結累計期間 自 2010年4月1日 至 2010年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 自 2011年4月1日 至 2011年9月30日
4 売上高	188,574	178,026
売上原価	57,825	49,773
5 販売費及び一般管理費	115,808	113,526
営業利益	14,941	14,726
営業外収益	1,881	1,426
営業外費用	2,441	1,671
経常利益	14,381	14,480
6 特別利益	—	1,235
税金等調整前四半期純利益	14,381	15,716
法人税等	5,730	6,146
四半期純利益	8,650	9,569

### 4 売上高

米子子会社の売上が、現地通貨ベースでは増加したものの、円高の影響を受けたことなどにより、売上高は1,780億円(前年同期比5.6%減)となりました。

### 5 販売費及び一般管理費

米子子会社でラツータ販売に伴う関連費用は増加しましたが、円高による影響等により1,135億円(前年同期比2.0%減)となりました。

### 6 特別利益

旧東京事業所の土地等の売却益を特別利益に計上したことから、四半期純利益は96億円(前年同期比10.6%増)となりました。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(単位：百万円)

科目	期間 前第2四半期 連結累計期間 自 2010年4月1日 至 2010年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 自 2011年4月1日 至 2011年9月30日
7 営業活動によるキャッシュ・フロー	30,030	34,113
8 投資活動によるキャッシュ・フロー	314	△ 6,307
9 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,120	△ 24,314
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,223	△ 158
現金及び現金同等物の増減額	20,001	3,332
現金及び現金同等物の期首残高	58,139	82,868
現金及び現金同等物の四半期末残高	78,140	86,201

### 7 営業活動によるキャッシュ・フロー

減価償却費等の非資金項目および売上債権の減少等により、341億円の収入(前年同期は300億円の収入)となりました。

### 8 投資活動によるキャッシュ・フロー

有価証券および有形固定資産の取得等による支出が、有価証券の償還等による収入を上回り、63億円の支出(前年同期は3億円の収入)となりました。

### 9 財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金の返済や配当金の支払等により、243億円の支出(前年同期は91億円の支出)となりました。

これらの結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、前期末に比べ33億円増加し、862億円となりました。

# 通期連結業績の見通し

## 2011年度通期連結業績の見通し

当第2四半期までの業績および為替状況や今後の業績動向を踏まえ、2011年5月発表の従来予想を修正いたしました。なお、従来の想定為替レートは1ドル85円ででしたが、今回1ドル80円に見直しております。

2011年度の売上高は、円高の影響や前期に計上した導出契約の一時金収入の減少などにより、3,520億円（前期比7.2%減）と減収になる見込みです。

国内医薬品事業は、戦略品や新製品を中心に売上拡大に取り組めますが、後発品の影響等により、1,802億円（同1.5%減）となる見通しであり、北米医薬品事業は、「ラソーダ」の市場浸透により売上拡大を図りますが、既存製品の売上減少や円高の影響により、1,084億円（同7.9%減）となる見通しです。

一方、費用面では、米国サノビオン社において「ラソーダ」

の販売費用増加が見込まれますが、円高によるドル建ての費用（サノビオン社買収に伴う償却費等を含む）の減少や、研究開発費の減少もあり、販売費及び一般管理費全体では減少する見通しです。

これらのことから、営業利益は200億円（同35.4%減）、経常利益は190億円（同33.6%減）、当期純利益は120億円（同28.6%減）となる見通しです。

### （ご参考：従来予想(2011年5月発表)との比較）

引き続き円高の影響を受けると見込まれることなどにより、売上高は100億円の減額修正を行いました。販売費及び一般管理費は、マーケティングの強化や研究開発プロジェクトの進捗に伴う費用増が今後見込まれますが、円高による円換算額の減少も想定されることなどから、営業利益は30億円、経常利益は35億円、当期純利益は35億円、それぞれ増額修正しております。

（単位：億円）

	2010年度 通期実績	2011年度通期業績予想		増減額	
		従来予想(5/11発表)	修正予想(10/31発表)	対前年度	対従来予想
売上高	3,795	3,620	3,520	△275	△100
販売費及び一般管理費	2,385	2,412	2,320	△65	△92
（うち研究開発費）	682	620	585	△97	△35
営業利益	310	170	200	△110	30
経常利益	286	155	190	△96	35
当期純利益	168	85	120	△48	35

\*為替レートは、1米ドル=80.0円、1中国元=12.6円を前提としております。

## 配当金について

株主の皆さまへの2011年度の1株当たりの中間配当金は、普通配当として9円とさせていただきます。期末配当金につきましても1株あたり9円を予定しており、年間合計では2010年度と同額の1株あたり18円（連結配当性向59.6%）を予定しております。

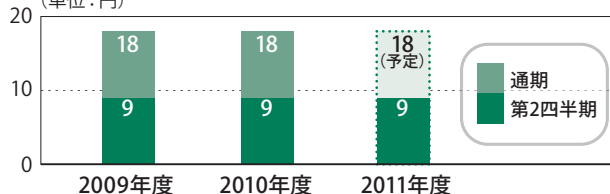
### 【利益配分の基本方針】

将来の成長のための積極的な投資および内部留保とのバランスをとりつつ、業績に応じた適切な配分を実施いたします。また、株主の皆さまに安定的な配当を継続することにも配慮いたします。

	2009年度	2010年度	2011年度(予定)
1株当たり配当金(円)	18.0	18.0	18.0
連結配当性向(%)	34.1	42.6	59.6

### 1株当たり配当金

（単位：円）



# 研究開発の状況

## 研究開発の方針

当社グループでは、精神神経領域を「重点領域」に、アンメット・メディカル・ニーズ(未だ満たされていない医療ニーズ)が高く、研究・開発・営業の各分野に高度な専門性が求められるスペシャリティ領域を「チャレンジ領域」とし、革新的な医薬品の創製を目指しております。

研究初期段階では、自社保有の先端技術を活かした研究開発効率の向上に取り組む一方で、国内外の大学を含む研究機関等とのアライアンスも積極的に進めております。また、核酸医薬、抗体医薬に関しては、専門の研究グループを配して研究を進めております。

非臨床研究後期および臨床開発段階では、サノビオン社を含めた会議体「グローバルPMC (Portfolio Management Committee)」を設置することでグローバルな視点から研究開発戦略を議論し、グループ全体でのポートフォリオの最適化を行っております。加えて、製品価値の最大化を目指した剤形展開等の製品ライフサイクルマネジメントにも積極的に取り組んでおります。

## 提携・導入

当社グループは、パイプラインの拡充という観点から、戦略的投資による提携や導入を積極的に推進しております。特に早期に上市可能な開発後期の品目のグローバルな権利獲得を目指しており、国内では精神神経領域をはじめとする国内営業基盤を活かすことができるものを中心に、北米では精神神経領域やスペシャリティ領域を優先に導入活動を進めております。また、研究段階での提携・導入に関しては、自社創薬の補完を目的とし、研究の重点領域、チャレンジ領域での提携・導入を推進いたします。

### 中長期を見据えた研究開発領域

重点領域： **精神神経領域**

チャレンジ領域： **スペシャリティ領域**

## がん領域への注力

がん領域はアンメット・メディカル・ニーズが極めて高い領域であり、がんの克服に挑戦することは研究開発型製薬企業の重要な使命であると考えております。

当社グループは、がんを含むスペシャリティ領域を研究のチャレンジ領域としており、がんの治療薬および診断薬を将来の重点事業の一つとすべく研究活動を強化しております。また、がん幹細胞を標的とする化合物「BBI608」について、日本をテリトリーとした独占的なオプション契約を締結するなど導入活動にも注力しております。

2011年6月には、がん(オンコロジー)領域に関するさまざまな機能や活動を一元的に統括する組織として、「オンコロジー事業推進室」を新設いたしました。オンコロジー事業推進室では、がん領域においてグローバルな事業戦略を策定・実行するとともにグローバルな研究開発体制の構築を進めてまいります。



## 開発状況表 (2011年10月31日現在)

非定型抗精神病薬「ラツーダ」については、4つの項目が新たに加わっております。

製品／コード名	一般名	予定適応症等	開発地域 または申請地域	開発段階			
				フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請中
<b>精神神経領域</b>							
ラツーダ／ SM-13496※1	ルラシドン塩酸塩	統合失調症	カナダ				
		(上限用量変更) 統合失調症:1日160mg	米国				
		統合失調症	日本				
		(新効能) 双極性障害うつ	米国・欧州等				
		(新効能) 双極性障害メンテナンス	米国・欧州等				
		(新効能) 大うつ(混合症状)	米国				
ステデサ	エスリカルバゼピン酢酸塩	てんかん(併用療法)	米国				
		てんかん(成人単剤治療)	米国				
DSP-8658	未定	アルツハイマー病	米国				
SEP-228432	未定	神経因性疼痛、うつ病	米国				
DSP-1053	未定	うつ病	米国				
<b>がん領域</b>							
カルセド※2	アムルピシン塩酸塩	小細胞肺癌	中国				
WT4869	未定	骨髄異形成症候群	日本				
		固形がん	日本				
<b>呼吸器領域</b>							
シクレソニド HFA Nasal Aerosol	シクレソニド	(新剤形)アレルギー性鼻炎	米国				
DSP-3025	未定	気管支喘息、アレルギー性鼻炎	日本				

※1 ラツーダ(SM-13496):欧州は武田薬品工業株式会社との共同開発を実施中(フェーズ3の試験段階:統合失調症、双極性障害)

※2 国内販売名です。海外販売名は未定です。

フェーズ1: 同意を得た少人数の健康成人において安全性を確認する試験

フェーズ2: 同意を得た少人数の患者さんにおいて有効性、安全性、使用方法を確認する試験

フェーズ3: 同意を得た多数の患者さんにおいて有効性、安全性、使用方法を確認する試験

製品／コード名	一般名	予定適応症等	開発地域 または申請地域	開発段階			
				フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請中
<b>循環器・糖尿病領域</b>							
シュアポスト	レバグリニド	(新効能)2型糖尿病： ビッグアナイド系薬剤との併用療法	日本	■	■	■	
		(新効能)2型糖尿病： チアソリジン系薬剤との併用療法	日本	■	■	■	
メトグルコ	メトホルミン塩酸塩	(小児用量追加)2型糖尿病	日本	■	■	■	
AS-3201	ラニレストット	糖尿病合併症	日本	■	■	■	*3
DSP-8153	アムロジピンベシル酸塩 イルベサルタン	高血圧症／配合剤	日本	■	■	■	
DSP-8658	未定	2型糖尿病	米国	■			
<b>その他の領域</b>							
SMP-986	afacifenacin fumarate	過活動膀胱	日本	■	■	■	
			米国・欧州	■	■	■	
プロレナール	リマプロストアルファデクス	(新効能)手根管症候群	日本	■	■	■	
DSP-1747	obeticholic acid	原発性胆汁性肝硬変(PBC)、 非アルコール性脂肪肝炎(NASH)	日本	■	■	■	
DSP-6952	未定	便秘型IBS、慢性便秘	日本	■	■	■	
DSP-5990	セフトロリン・フォサミル	MRSA感染症	日本	■	■	■	*4

■ は2011年5月からの変更箇所です。

\*3 フェーズ3の準備段階です。

\*4 フェーズ1の準備段階です。

## 非定型抗精神病薬ルラシドンの開発進捗状況

当社はルラシドン塩酸塩（一般名）をグローバル戦略品と位置づけて、開発に注力しております。米国では、統合失調症を適応症としてFDA（米国食品医薬品局）の承認を取得し、2011年2月にサノビオン社より「ラツータ」<sup>®</sup>として発売いたしました。現在の1日最大推奨用量は80mgですが、2011年6月には1日最大用量を160mgに変更する申請をFDAに提出いたしました。また、今後の適応症の拡大を目指して、双極性障害うつ<sup>®</sup>の臨床試験を実施中であるほか、2011年4～6月期には双極性障害メンテナンス、大うつ（混合症状）の臨床試験を相次いで開始し

ており、「ラツータ」の米国での価値最大化を図っております。

米国以外では、カナダにおいて、2011年6月に新薬承認申請を提出いたしました。日本および欧州ではフェーズ3の試験段階にあり、日本では新規にフェーズ3の試験を開始すべく現在準備中です。欧州では武田薬品工業株式会社と提携し、早期の申請を目指しております。中国では2011年9月に治験届けを提出し、今後臨床試験を実施する予定です。

北米、欧州、日本、そして中国において、ルラシドンのグローバルな成功をおさめるために、全力で取り組んでまいります。

当社は中期経営計画における基本方針の一つとして、「CSRと継続的経営効率の追求」を掲げ、CSR経営に注力

## 東日本大震災に対する復興支援活動

当社は、東日本大震災の復興支援についてさまざまな取り組みを行っております。  
当社のこれまでの主な活動についてご紹介いたします。

### 「震災復興支援室」の設置

当社では、地震発生直後から、義援金の拠出や医薬品の提供などを行いましたが、東日本大震災の復興を長期的に支援するため、2011年5月1日付で専任組織である「震災復興支援室」を設置し、被災地の復興のために当社ができることを検討・立案・実施しております。

### 薬剤師ボランティアの派遣

製薬企業である当社独自の支援活動として、被災地へ向けて薬剤師資格を有する社員ボランティアを4月28日から8月2日までの間に3名ずつ24団（合計72名）を派遣いたしました。当社薬剤師ボランティアは宮城県薬剤師会において薬剤師業務のサポート（医薬品の仕分け、運搬など）を行いました。本活動は薬剤師会からも高く評価いただいております。



### 一般社員ボランティアの派遣

6月27日から一般社員ボランティアの派遣も行っており、岩手県陸前高田市へ赴き、清掃活動（泥出し、がれき撤去）などを行っております。9月末までに6団（合計98名）が現地へ赴き、活動を行いました。10月以降もボランティアの派遣を継続しております。

## 鈴鹿市との災害時飲料水等供給の協定締結

当社は2011年9月13日、三重県鈴鹿市との間で「災害時における飲料水等の供給に関する協定」を締結いたしました。当社は、鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）内に、地下水を飲料水にろ過するシステム（地下水飲料化システム）を保有しております。今回の協定によって、地震などの大規模災害の発生時に、鈴鹿市からの要請に応じて、鈴鹿工場の地下水飲料化システムにより得られた水を近隣住民の方々に飲料水等として供給することが可能になります。

この協定により、大規模災害発生時に近隣住民の方々のお役に立ち、地域社会により一層貢献したいと考えております。



しております。2011年度は社会貢献活動の重点施策として、全社を挙げて震災復興支援に取り組んでおります。

### 福島県 大熊町立幼稚園、小学校、中学校合同運動会の支援

当社が開催を支援した福島県双葉郡大熊町立幼稚園、小学校、中学校の合同運動会(主催:大熊町教育委員会)が10月1日に同県会津若松市で開催されました。

福島第一原子力発電所の所在地である大熊町の住民の多くは、避難指示のため、現在会津若松市に集団移動をしており、集団移動先での運動会の開催は難しいと考えられていました。当社は、次世代育成の観点から、運動会の開催を支援することにいたしました。



### 社員からの支援金

社員からの支援金として、給与引去り制度を利用しております。集めた支援金は、震災孤児への支援を目的とした「あしなが育英会」に寄付する予定です。

今後も被災地のニーズに則した復興支援活動を長期的に行い、被災地の一日も早い復興のために貢献していく所存です。

## 患者さんにとって服薬しやすい製剤の開発

### ノルアドレナリン作動性神経機能改善剤「ドプス<sup>®</sup>OD錠」新発売



当社はノルアドレナリン作動性神経機能改善剤「ドプス<sup>®</sup>OD錠100mg」および「ドプス<sup>®</sup>OD錠200mg」を2011年7月12日に発売いたしました。

ドプス<sup>®</sup>は、「パーキンソン病におけるすくみ足、立ちくらみの改善」などを効能・効果とし、1989年にカプセルおよび細粒の剤形で発売されました。

ドプス<sup>®</sup>OD錠は、ドプス<sup>®</sup>の剤形追加品であり、服薬する患者さんの病態を考慮して製剤設計した口腔内崩壊錠で、一定の硬度を保持しながら、高含量でも速やかな崩壊性を実現した

「SUITAB-MAX<sup>®</sup>」という当社独自の新技术を用いております。嚥下障害を伴うことの多いパーキンソン病患者さんにとって飲みやすく、また、パーキンソン病特有の筋肉の緊張やふるえを有する患者さんにとって取り扱いやすい大きさにしております。さらに、水の有無に関係なく服用できるため、水分の制限を受けている患者さんにも服薬しやすい製剤です。

当社では「SUITAB-MAX<sup>®</sup>」のほかにも、独自の口腔内崩壊錠に関する製剤技術を多数有しており、患者さんの病態や服用状況に応じた製剤の開発に取り組んでおります。

## 速効型インスリン分泌促進剤「シュアポスト®」新発売

当社は、速効型インスリン分泌促進剤「シュアポスト®錠0.25mg、シュアポスト®錠0.5mg」（一般名：レパグリニド）を、2011年5月16日に発売いたしました。

本剤は、膵臓にあるスルホニル尿素（SU）受容体に作用して食後のインスリン分泌を速やかに促進することにより、2型糖尿病患者さんの食後血糖推移を改善し、ヘモグロビンA1cを低下させる速効型インスリン分泌促進剤です。

当社は本剤の上市によって、2型糖尿病の治療に一層貢献できることを期待しております。



## アポトーシス抑制因子に関する東京大学との共同研究について

当社は、国立大学法人東京大学との間で、アポトーシス抑制因子AIM\*に関する共同研究契約を2010年9月に締結し、AIMが関与するさまざまな疾患に対する新しい医薬品を創製することを目指して、共同研究を実施しています。この共同研究の一部であるAIM抗体の研究に関して、株式会社トランスジェニックが参画することになり、2011年6月7日、三者間で新たに共同研究契約を締結いたしました。

AIMは、東京大学医学系研究科 宮崎徹教授の研究グループにより、メタボリックシンドロームに関連することが見出された分子であり、バイオマーカーとしても創薬ターゲットとしても期待されます。

※ Apoptosis Inhibitor of Macrophage

## DSKプロジェクト「悪性制御研究ラボ」発足記念シンポジウム開催



京都大学大学院  
医学研究科長・医学部長  
湊長博教授

当社と国立大学法人京都大学との協働による制がん研究拠点「悪性制御研究ラボ」（DSKプロジェクト）の発足記念シンポジウムが2011年9月23日に開催されました。DSKプロジェクトは2011年4月から本格的にスタートしており、その発足を記念した本シンポジウムは「細胞悪性化の分子機構と新たながん治療戦略」と題して、研究者の方々を対象に行われました。

当日は約120名が参加される中、京都大学大学院医学研究科長・医学部長である湊長博教授をはじめ、多くの先生方のご挨拶またはご講演があり、DSKプロジェクトへの期待が高まるシンポジウムとなりました。

DSKプロジェクトでは、京都大学が有する基礎・臨床医学の最新知見と当社が有する創薬技術を融合することにより、画期的な抗がん剤の発見に結びつけることを目指しております。

New

## 個人投資家向けページを新設

当社ホームページのIRサイト内に、「個人投資家の皆さまへ」のページを新設いたしました。同サイトは、「大日本住友製薬グループへの理解を深めていただきたい」との考えから開設したものであり、個人投資家の皆さまにとって特に関心の高い情報を集めて分かりやすく掲載しております。従来掲載していた情報についても、コンテンツを再整理し、より検索性が高く使いやすい構造へ改善しております。ぜひ、ご利用ください。



### IRニュースメール配信

メールアドレスをご登録いただくと、最新の決算発表資料、プレスリリースの新着情報をe-mailにてタイムリーにお届けいたします。

### 投資家向け用語集 ／よくあるご質問

医薬品業界における業界用語や最新のキーワードをやさしく解説しています。また、個人投資家の皆さまからのお問い合わせがよくある項目については集約して掲載しております。

### 研究開発情報

当社の事業内容の中で、特に投資家の皆さまの関心が高い研究開発について、分かりやすく整理し、掲載しています。

個人投資家の皆さまへURL

[http://www.ds-pharma.co.jp/ir/p\\_investors/](http://www.ds-pharma.co.jp/ir/p_investors/)



# 企業インフォメーション (2011年9月30日現在)

## 会社の概況

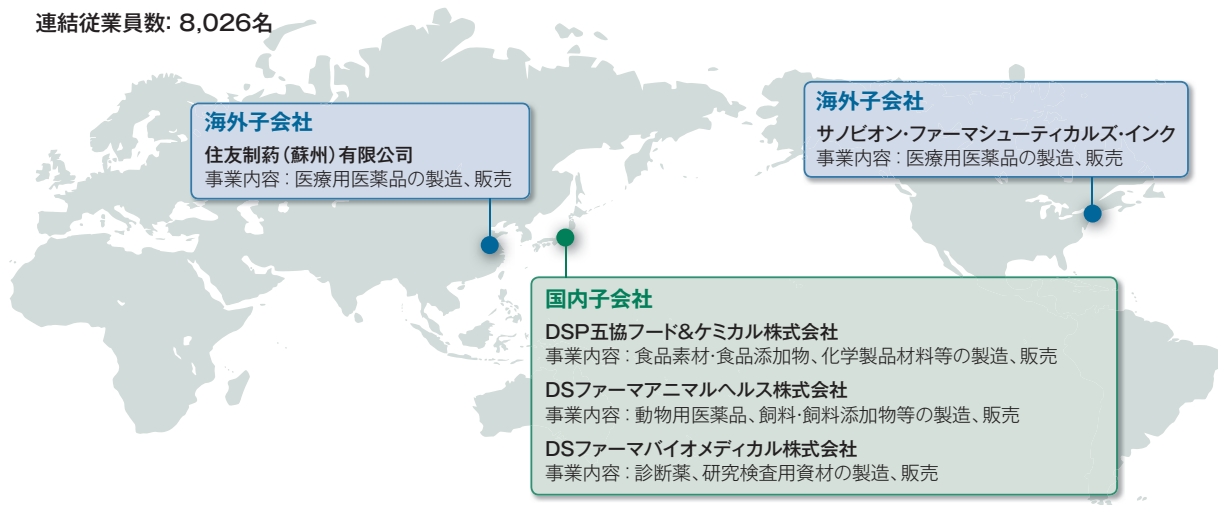
商号	大日本住友製薬株式会社(だいにっぼんすみともせいやく) Dainippon Sumitomo Pharma Co., Ltd.
設立	1897年(明治30年)5月14日
合併期日	2005年(平成17年)10月1日
本社所在地	大阪市中央区道修町二丁目6番8号(〒541-0045) 代表電話：06-6203-5321
資本金	224億円
従業員数	8,026名(連結) 4,521名(単体)
事業内容	医療用医薬品の製造および販売等
主要拠点	〈事業所〉東京支社・大阪総合センター 〈支店〉全国22支店 〈工場〉鈴鹿、茨木、愛媛、大分 〈研究所〉総合研究所、大阪研究所 〈物流センター〉東京物流センター、神戸物流センター

## 取締役および監査役

代表取締役社長	多田 正世
代表取締役	小野 圭一
取締役	岡村 一美
取締役	野口 浩
取締役	原 誠
取締役	岡田 善弘
取締役	石田原 賢
取締役	老田 哲也
常勤監査役	日野 育夫
常勤監査役	竹田 信生
監査役	近藤 誠宏
監査役	内田 晴康
監査役	佐藤 英彦

## 主な国内および海外子会社(連結)

連結従業員数: 8,026名



# 株式の状況 (2011年9月30日現在)

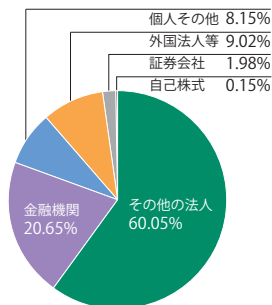
## 株式の数

発行可能株式総数 1,500,000,000株  
 発行済株式の総数 397,900,154株

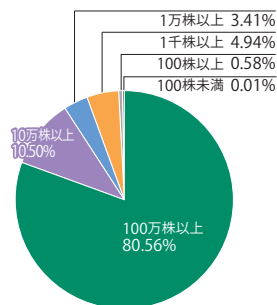
## 株主数

20,147名

### 所有者別状況



### 所有株数別状況

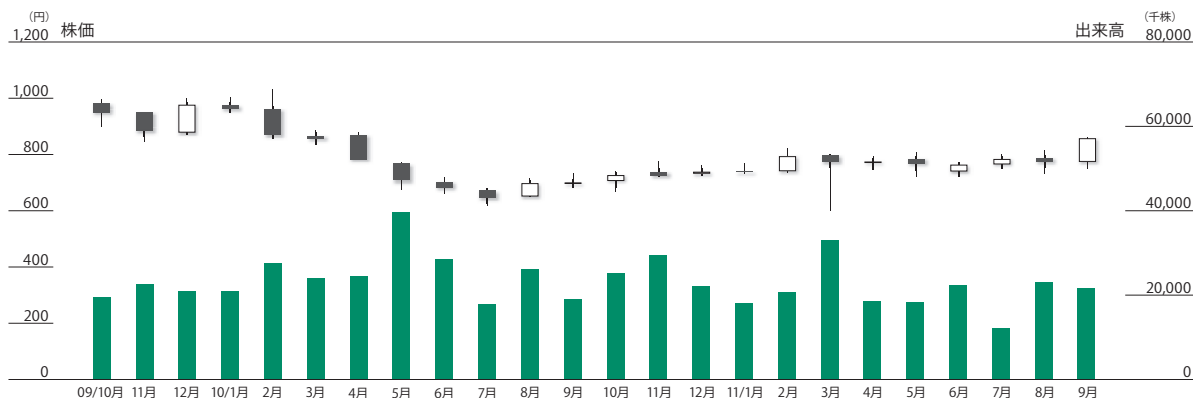


## 大株主

大株主	持株数 (千株)	持株比率 (%)
住友化学株式会社	199,434	50.20
稲畑産業株式会社	27,282	6.87
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,531	3.66
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,202	2.82
日本生命保険相互会社	10,530	2.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	7,000	1.76
住友生命保険相互会社	5,776	1.45
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,928	1.24
大日本住友製薬従業員持株会	4,158	1.05
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,144	0.79

(注)持株比率は、自己株式(588,230株)を控除して計算しております。

## 株価および株式売買高の推移 (東京証券取引所)



# 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月開催  
基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

単元株式数 100株  
公告の方法 電子公告  
当社ホームページ(<http://www.ds-pharma.co.jp/>)に掲載いたします。  
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 および 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 〒183-8701

(電話照会先) 東京都府中市日鋼町1番10  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

上場証券取引所 東京・大阪

証券コード 4506

大日本住友製薬に関する情報は  
ホームページでもご覧になれます。  
<http://www.ds-pharma.co.jp/>



## 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
- 証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先(0120-176-417)にご連絡ください。

## 【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。

特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先(0120-176-417)にお願いいたします。

## 【単元未満株式の買取・買増請求のお取扱いについて】

- 株券電子化後に証券会社の口座で単元未満株式を保有されている株主様は、お取引の証券会社宛にお問い合わせください。
- 株券電子化後に特別口座で単元未満株式を保有されている株主様は、上記の電話照会先(0120-176-417)にお問い合わせください。

## 大日本住友製薬株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町二丁目6番8号

<http://www.ds-pharma.co.jp/>